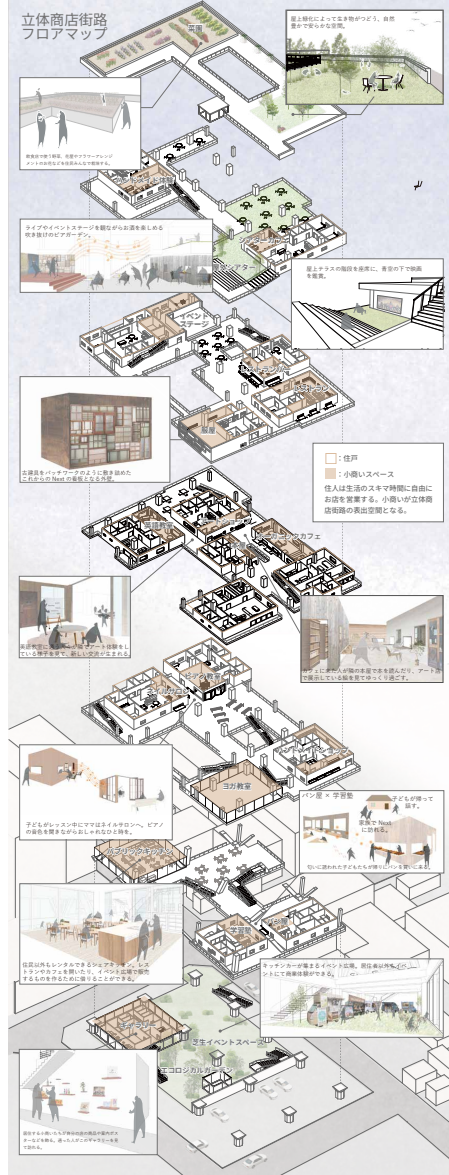


立体商店街路

—小高い建具通り—



01 小高い昔と今

a. 小高いのまち「大層」
 古くから小高いを築き上げた人文化のまち。大層、小高いを築いた人文化を形成し、商店街を作ることで地域コミュニティの場を作り出していた。しかし、そのまちがコミュニティを築き上げていく。

b. 現代の「小高い」
 スキマ時間によって生活が変化する現代、小高いのまちが変化し、商店街を築き、まちが変化する。自身のライフスタイルに合わせて、より気軽に始めることができる。

02 新たな実験集合住宅

このことから私たちは、住戸に小高いスペースを設け、それを立体的に活用させた「立体商店街」を提案します。ラフな空間に合わせ、手軽に店舗を営業できる立体商店街は、集まって住まうことによるコミュニティを築き出した。ラフな空間に合わせ、手軽に店舗を営業できる立体商店街は、集まって住まうことによるコミュニティを築き出した。

立体商店街「まちインフィル」
 立体商店街の空間を構成するにあたり、私たちは「まちインフィル」として「建具」に着目しました。まちの空間を構成し、人々の生活がめぐる空間を、その中をめぐる空間を、新たにまちのインフィルとして私利利用することで立体的な空間を作り出します。

02 立体商店街路を彩る「まちインフィル」

a. 住居構成
 スタイルに合わせた「まちインフィル」は、集合住宅の共有空間を作り出す小高いスペースに転用されます。既存の立体商店街を活かし、住戸と小高いが合体されたユニットを構築し、立体商店街路を作り出します。

b. 採集したまちインフィル
 私たちは空店舗周辺で使われている、まちインフィルを採集しました。まちインフィルを用いて小高いスペースに転用し、集合住宅に新たな空間を作り出します。

c. 表出空間をつくりだす、まちインフィル
 表出空間をつくりだす、まちインフィル

03 立体商店街路で暮らす一日

立体商店街路に入居した人は自身のライフスタイルのスキマ時間に小高いを暮らす。とある住戸では、日々作りを意味している。住人が活動の時間を利用して近所の人たちとつながる。住人たちはそうしたスキマ時間でこのコママーケティングを行い、本高いへの進展を企んでいる。

6時 9時 12時 15時 18時 21時 24時

朝 日 夕 夜

04 各地にひろがる、ネクスト21

スタイルインフィル + エコロジカルガーデン + 空店舗 = 地域固有の NEXT21

住戸 + まちインフィル = 小高い

まちインフィルを転用する立体商店街は地域の界線や記憶を継承し、その場所独自のものとして立ち現れます。全国へ展開される立体商店街は地域固有の小高いも取り込み、まちの個性を強めていきます。小高いのまち、大層から全国へ広がる実験集合住宅として、NEXT21は数世代のまちへと広げられていきます。

大西賞

N00144

立体商店街路

—小高い建具通り—

- 田村 知広 (大阪工業大学)
- 川上 玄 (大阪工業大学大学院)
- 神山 響 (大阪工業大学大学院)
- 賀谷 陽樹 (大阪工業大学)
- 黒田 大智 (大阪工業大学)
- 坂井 綾莉 (大阪工業大学)
- 西島 咲紀 (大阪工業大学)